

人権教育だより



島根県立大東高等学校

令和6年度

3学期号

令和6年度も終わりを迎えました。この一年間の「人権教育」のしめくくりの3学期。

お子様の、他者の人権を尊重する態度の育成に努めてきました。ご家庭でもその姿を見ていただけていると幸いです。

3学期 様々な人権課題について考えました。



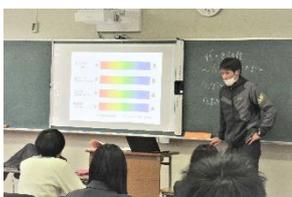
1年生 ～性の多様性について考えよう～

1年生は、これまで「言い方次第で気持ちも変わる」「違いの違い～偏見と差別について考える～」と、自分の身の回りにある問題について考えてきました。3学期は、社会に目を向け、人権課題の一つである「性の多様性」について学びました。



自分を構成するものには、名前や年齢、趣味や将来の夢などたくさんの要素があり、誰もが持つ重要な要素のひとつに「セクシャリティ」があります。「セクシュアリティ」の4つの要素は、カラダ・ココロ・スキ・役割のそれぞれの性です。

- ① 「カラダ」=生まれたときに割り当てられた、いわゆる生物学的な性、からだの性です。
- ② 「ココロ」=自分自身はこの性だと認識している性、つまり性自任、性同一性、こころの性です。
- ③ 「スキ」=自分がどういう相手に対して恋愛感情や性的魅力を感じるか、つまり「性的指向」のことです。これは「カラダの性」ではなく「ココロの性」を基準にします。
- ④ 「役割」=社会から期待される性、性別によって期待される行動や役割のことです。役割は見た目・服装、しぐさ、言動などがあります。



「セクシャリティ」はグラデーションでひとりひとり違います。ただ、社会の中では「これが普通」といわれている性のあり方があり、それとは異なる性のあり方をしている人は「セクシュアル・マイノリティ」と呼ばれることがあります。その上で、学校や社会の中で改善すべきところはないか、グループで話し合いました。最後は、もし身近な人からカミングアウトされたらどうするか、どう声をかけたらよいかを学びました。

- ✎ 男女別が当たり前だと思っていたことが、よくよく考えてみたらおかしいんじゃないかと気づくことができて良かったです。
- ✎ 知らない間にトランスジェンダーの人を傷つけているかもしれないことを知りました。また打ち明けてくれた人のことを否定せずに話を聞くことはトランスジェンダーの人に対してだけではなく、友達や家族に対しても気をつけないといけないことだと思いました。
- ✎ 自分はトランスジェンダーの人にあつたことがないけど、それはいないのではなくて言えてないだけだと思う。だからそういう話をされたら、笑ってごまかすのではなくて、真面目にしっかり聞いてあげて反対せず、真面目に考えてあげたいです。

～生徒の感想より～



2年生 ～同和問題の歴史から学ぶ～

2年生は、同和問題、部落差別について考えました。

被差別部落と呼ばれた地域の人は、その人自身に問題があったわけではなく、人為的に作られた身分制度によって、厳しく差別されたこと、反対に、社会を支える職業を担い、文化に貢献してきたことを確認しました。そして、明治になり身分制度が廃止され、第二次世界大戦後の日本国憲法において「基本的人権の尊重」が謳われてもなお、差別が続いていることを学びました。そして、なぜ差別が続くのか、その背景にあるものは何か、考えました。



～生徒の感想より～  解放令も出たけれど、社会的な差別はなかなか消えず差別された人の心の傷も消えないということがわかりました。素晴らしい職業なのにも関わらず差別されていたのはひどい歴史だと思います。無知だからそこに差別が生まれ必要のない被害者が出てきてしまうのではないかと思います。

 差別がなくなる原因は、自分より下の立場の人を見つけることで安心するからではないか、と近くの人と話しました。それぞれの違いが理解できなくてもその違いを認め合うことが大切だと思います。

 私はなぜ差別はなくなるのだろうと考えたとき集団で動くからだと思いました。誰かが感じた偏見が共有され広まることで差別につながると思いました。集団になるとやめたくても、言ったら自分が標的になるかもしれないから言い出せないといったループで差別はなくなるのだろうと感じました。

 無意識に偏見から差別に変わっていくことを知りました。また、自分が相手に対して不安等があるかもしれないけど、それを防ぐことができると学びました。この授業を通して私は人の悪いところばかり見つけるのではなく、人の良いところを見つけていきたいなと思いました。



3年生 ～講演会「『生きる』ということ」講師:三浦成人さん～

3年生は、様々な人権課題について学んできました。今回は、高校3年間の人権教育の総まとめとして、源氏蛍の会代表の三浦成人さんをお招きして同和問題についての講演を聞きました。

一年前に、三浦さんのお話や、三浦さんご自身の壮絶な差別体験についてうかがいました。今年はその続きとなります。親元を離れておばあさんと暮らす高校生活。自分の生まれを隠して過ごしていた大学生活。その中で出会った差別に立ち向かう友人の話。ご自身の結婚の話……。どれも心を打たれる話ばかりでした。

三浦さんは、講演中生徒たちに語りかけるように、そして時折熱く訴えるように問いかけられました。生徒たちは、背筋を伸ばし顔を上げ、しっかりと三浦さんの目を見て聞いていました。「君たちは人を見た目で判断しないという自信があるか。」その言葉にだれもが自分を振り返り、他人を差別せず、自分らしく生きることの大切さを考える貴重な機会となりました。「生きるということは、誰にでも与えられた権利です。」三浦さんのこの言葉をぜひこれからの人生に役立ててほしいと心から願うとともに、みなさんの"今"を一生懸命に生きてほしいです。

今回の講演会の感想の一部を次ページに掲載します。これまでの学びから、差別に気づき、そしてどう行動するか、力強くそれぞれの考えが伝わってきます。

◆差別はよくないことだと知ってはいましたが、絶対人を偏見で決めつけたりしていないとは言えないなと思いました。いじめもされるか見ていないふりをしていました。理由は巻き込まれたくないからです。ですが、これからは直接言えなくても、見ていないふりはやめようと思いました。

◆「**どんな人でも生きる価値は同じ**」という言葉がすごく心に残りました。自分は差別の対象ではないからといって、他の人を差別するような恥ずかしい人間にはなりたくないと思いました。もしそういう場面にあったときには、今までの私だったら知らんふりをしてしまっていたかもしれないけど、どんな行動をするべきか、しっかりと考えて誰かのためになるような生き方をしたいと思いました。

◆差別がどれだけおかしいことを強く感じました。今まで、部落差別、結婚差別など教えてもらったけれど、あまりピンと来たことがなかったので、今回すごくイメージができて、いかにおかしなものかを知りました。また、「**人権教育は、受けた後、どうするかが大切**」という言葉に深く共感をしたので、身近でいじめや差別を見たとき止めることができるかまだわからないけれど、自分は絶対に差別をしたくないと思いました。

◆これまで小学校、中学校、高校で、様々なことを学び考えてきました。「差別はダメ」何度も聞いてきたし、自分の中で理解してきたつもりでした。しかし、三浦さんのお話を聞いて、今まで学習したことの背景がわかったと思います。中でも、「**差別があるのではなく、差別をする人がいる**」という言葉が印象に残っています。今までは差別はあるもので、環境が原因だと思っていたけれど、環境等を理由にして差別をしている人がいると思うようになりました。

◆間違っていることを間違っていると声を出すことの難しさ、大切さを実感しました。人は一人だとどうしても強く意志を持つことが難しく、周囲の意見に流されてしまいます。しかし、誰か一人でも自分が思っていることを声に出してくれる人がいると、その人に勇気づけられて間違いを正そうとする流れが生まれると思います。この先の人生で、もし理不尽に直面したら自分こそがこの誤りを断ち切るのだという考えを強く心に持ちたいと思います。

◆初めは子どもたちに教えなければいいという考え方でしたが、三浦さんの実体験を聞いて、子どもに差別を教えちゃう親がいることを知り、このような学校での人権講座がとても大切なことだということを理解しました。

◆どういった言動が差別につながるのか、差別は絶対にしてはいけないことだということが、当たり前のこととして自分の中にも周りの人の中にもありました。……三浦さんに「**人を見たくて判断しない自信があるか**」と言われて、はっきりとした自信が持てませんでした。私にはひどい差別を受けた経験もなく、差別を受けてきた人たちの気持ちを心から理解することはできないと思うと、絶対差別をしていないとはっきり言えない自分がいるなと思いました。でも今までの自分の行動に自信が持てないからこそ、これからの自分には自信を持って絶対差別をしないと、人を見たくて判断しないと言えるような人になりたいと思いました。

ピンクシャツデー (3/12・13) 実施!

今年も生徒会執行部からの呼びかけで、3月12日(水)13日(木)の2日間、「ピンクシャツデー」を実施しました。



ピンクシャツデーキャンペーンは、カナダの学生が始めた「いじめ反対運動」です。カナダのハイスクールで、ピンクのポロシャツを着て登校した男子生徒が、

ホモセクシュアルとからかわれ暴行を受けました。それを聞いた上級生が、クラスメートに「学校でピンクシャツを着よう」と呼びかけ、数百人もの生徒たちがピンク色を身につけ登

校したという実話にもとづいた活動です。この活動は、現在、カナダばかりではなく数十もの国や地域に広がり、世界的キャンペーンとなっています。大東高校でも、生徒会から趣旨を説明し、いじめや差別のない学校生活を送れるようにと、みんなに呼びかけました。12日・13日の2日間だけでしたが、生徒たちまた教職員も、ピンク色のものを身につけることで「いじめ反対」の意思表示をしました。



13日も笑顔あふれる球技大会となりました。(^^)

R7・8年度 大東高校は「人権教育実践モデル校」に指定されます

来年度から2年間、大東高校は「人権教育実践モデル校」に指定されます。これは、「進路先保障」ではなく、一人一人の子どもの背景を考えて生きる力を育む「進路保障」を柱とした人権教育推進と教職員集団の人権感覚を涵養するための具体的な実践を行い、その成果を公表し、人権教育の一層の充実を図ることを目的とした事業です。

それに伴い、PTA連合会から大東高校PTAも指定を受け、人権教育PTA活動育成事業を実施することになります。“指定事業”と言われると、「大変だ!」「面倒なことに……」など思われるかもしれませんが、必ずしも新たなことを企画しなくてはならない、というものではありません。これまでのPTA活動が“人権教育”お子様たちの成長につながっていることを改めて確認し、活動していただければと思います。

学校の活動と併せて、ご協力をお願いします。

